

はじめは本当に大変だった

「挑戦をつづけた はじまりのモノづくり」展

川島織物文化館 2021年7月19日(月) ～ 2022年6月30日(木)



大きな織物を織りたいと考えた甚兵衛は、織機を改良し、幅約18mの織物が織れる「綴織大機（つづれおりおばた）」を完成させた。（1903年頃）

株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：木村弘一）は、本社に併設の川島織物文化館（京都市左京区）で、「挑戦をつづけた はじまりのモノづくり」展を、7月19日(月)より開催します。

モノづくりに携わる人の多くが憧れるヒット商品。家電製品からスマートフォンまで様々な新製品と共に、私たちの暮らしは便利に豊かになってきました。一方で、開発者の苦労は計り知れず、挑戦者の行動には多くのヒントが隠れています。

川島織物セルコンの創業二代目である川島甚兵衛も、新製品を開発し続けた一人で、日本の住環境にマッチした室内装飾を編み出し、今日のカーテンや壁紙につながる織物を生産しました。

「挑戦をつづけた はじまりのモノづくり」展では、二代川島甚兵衛が渡欧時に収集した見本裂や試織、織下絵などから挑戦をつづけたモノづくりを紹介します。

開催概要

タイトル： 挑戦をつづけた はじまりのモノづくり

会 期： 2021年7月19日(月) ～ 2022年6月30日(木)

場 所： 川島織物文化館

(京都市左京区静海市原町 265)

休 館 日： 土・日・祝祭日、夏期、年末年始、

川島織物セルコン休業日

入 館 料： 無料

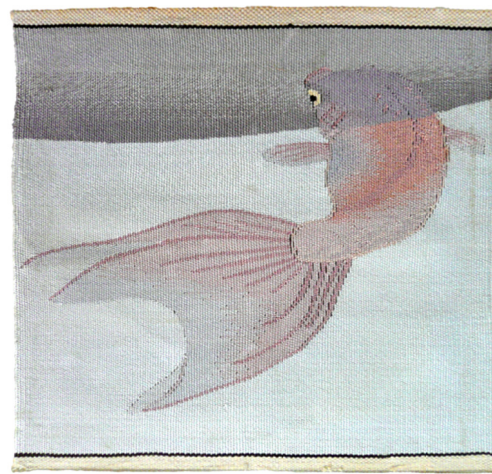
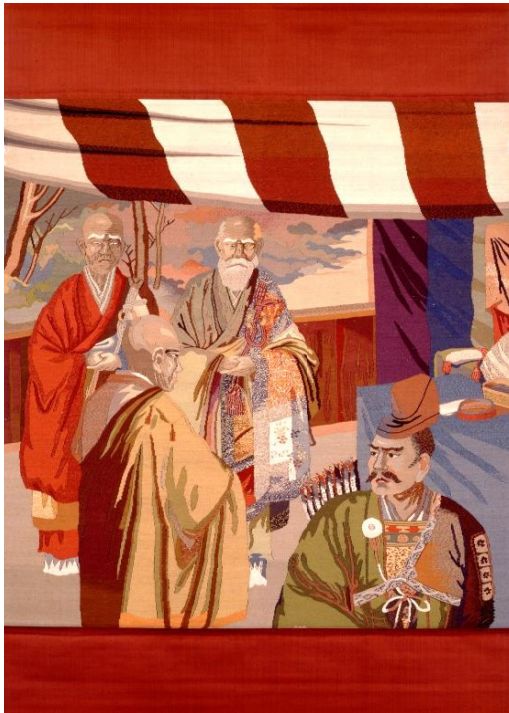
※ ご見学は完全事前予約制です。

※ 新型コロナウイルス感染防止のための対策を講じた上で、運営をしています。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

詳細は ホームページ をご確認ください。

<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

■ 主な展示作品



左上：綴織壁掛試織「大徳寺焼香場」 1888（明治 21）年頃

右上：明治宮殿婦人室綴帳小下絵「秋草模様菊花」 今尾景年筆 1887（明治 20）年

左下：綴織壁掛原画「犬追物」 原在泉筆 部分 1888（明治 21）年頃

右下：綴織壁掛試織「花籠と金魚」 1893（明治 26）年頃

■川島織物文化館 概要■

1889（明治 22）年に二代川島甚兵衛が京都・三条高倉に建てた三階建ての洋館「織物参考館」に始まる国内最古の企業博物館。初代・二代 川島甚兵衛がモノづくりの研究のため世界中から収集した染織品、古書類、製作してきた原画類・試織など、織物に関する貴重な資料を保管しています。

館内では、これらの史資料や当社が手がけてきたプロジェクトにまつわる資料やエピソードを紹介し、織物の魅力や当社のこだわりのモノづくりを紹介しています。



所在地：〒601-1192

京都市左京区静海市原町 265

株式会社川島織物セルコン内

TEL：075-741-4120

開館時間：午前 10 時～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）

休館日：土、日、祝祭日、夏期・年末年始（川島織物セルコン休業日）

入館料：無料

見学予約：見学は事前予約制

見学希望日の前日 16 時までに電話でお申込み下さい。

（※月曜日ご来館希望の場合は前週金曜日）

ご予約専用 TEL：075-741-4323

ホームページ：<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

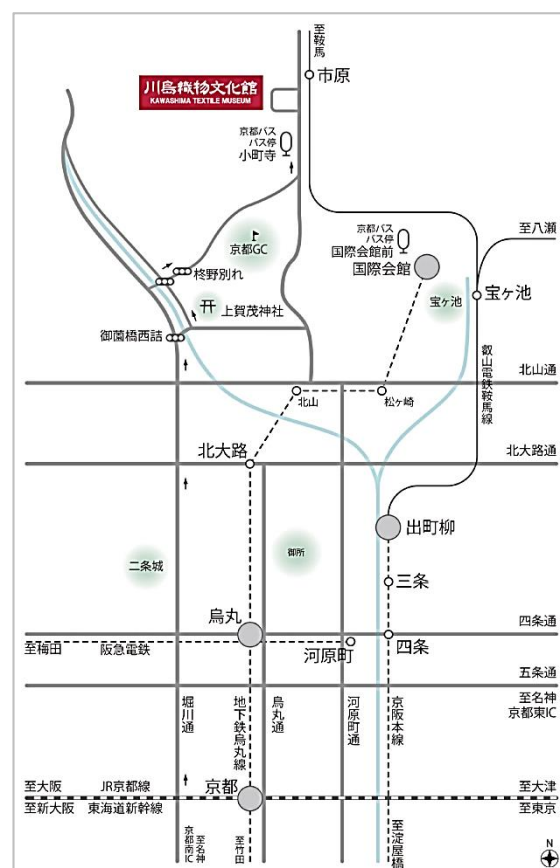
アクセス：●地下鉄「国際会館」駅より

・京都バス（50/52 系統）「小町寺」下車 徒歩約 5 分

・タクシー 約 10 分

●叡山電車 鞍馬線「市原」駅下車 徒歩約 7 分

●京都駅より タクシーで約 40 分



■川島織物文化館の運営について

川島織物文化館は、新型コロナウイルス感染防止のため、手洗い・うがい・マスク着用の徹底、咳エチケットの実施などの対策を講じた上で、運営をしています。ご不便をおかけいたしますが、ご来館のお客様にもご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。